

【小行灯の作り方-改良版】



小行灯 (高さ2.5センチ)



火袋にタテ棧を入れたもの

《キットに含まれているもの - 小行灯2個分の材料が入っています》

☆麦球 x2	☆和紙 x1	☆プラスチックの角管 x2	☆ヒノキ棒 (1ミリ角) x4
☆説明書 x1	☆粘着テープ	(行灯の枠)	☆ヒノキ棒 (1x2ミリ) x6
		☆ビーズ (バル型) x2	☆延長コード・収縮チューブ

《自分で用意するもの》

★カッター	★ハサミ	★サンドペーパー	★ピンセット	★ボンド
		(#180~#320程度)		

〈小行灯の作り方〉

<p>(1)</p> <p>行灯の火袋(ひぶくろ)になるプラスチックの角管。材質はスチロール樹脂(プラモデルと同じ)です。</p>	<p>(2)</p> <p>角管の表面にサンドペーパーをかけます(接着をよくするため)。切り口にバリが残っていたら取っておきます。</p>	<p>(3)</p> <p>和紙を3x5センチぐらいに切り、ボンドを塗って角管の外側に巻くように貼り付けます。</p>	<p>(4)</p> <p>ボンドがよく乾いたら、はみ出した和紙をカットします。</p>	<p>(5)</p> <p>1x2ミリのヒノキ棒を2.3センチ長にカットし、隅柱として四隅に貼ります。上端を火袋の上端と揃えます。</p>
<p>(6)</p> <p>隅柱を上から見たところ。このように火袋の四隅の頂点部に、対角線の向きに貼りつけてください。</p>	<p>(7)</p> <p>火袋上部の框(かまち)にするヒノキ棒(1x2ミリ)を切ります。実際の隅柱の間隔(約1.4センチ)に合わせましょう。</p>	<p>(8)</p> <p>上部の框を貼ります。隅柱と隅柱の間に渡すようにします。接着が弱いときは、プラ板との境にボンドを多めに塗ります。</p>	<p>(9)</p> <p>下の框は1ミリ角のヒノキ棒を約1.2センチ長にカットし、角を45度に切ります。実際の隅柱の間隔に合わせます。</p>	<p>(10)</p> <p>行灯の火袋の基本形が完成しました。</p>
<p>(11)</p> <p>ウッドビーズの底面にコードを通すミゾを切っておきます。ウッドビーズを割らないように注意。</p>	<p>(12)</p> <p>麦球をウッドビーズの上から通し、底面のミゾを切った方にコードを逃がします。</p>	<p>(13)</p> <p>ウッドビーズの底面に粘着テープを貼って台の上に固定します。</p>	<p>(14)</p> <p>(10)の火袋をかぶせれば完成です。12Vの電源につないで点灯させます。</p>	<p>(15)</p> <p>火袋にタテヨコの棧をつければ変化が出ます。このタテ棧は1ミリ角のヒノキ棒を2本ずつ貼っています。</p>